令和2年度(令和元年度実施事業分)事務事業評価評価票

No. 09-005
 担当 岩田
 内線等 288

PDCA	事務事業名	消防団費	部課等名	総務部 防災交通課 防災 減災担当					
P 総合計画との関係性等	政策体系	章： 第4章 安全で快適に住み続けられるまち							
		節： 第1節 安全・安心な社会の形成							
		基本施策： 3. 消防・救急対策							
		個別施策： ①消防団組織の充実・強化							
	根拠法令等	半田市消防団条例							
	対象・目的	火災や自然災害から安全・安心な社会を形成するため、地域の実情に精通し、防災技能や指揮系統に優れた消防団の充実・強化を図る。							
	目的を達成するための手段・活動内容	各地区で行われている防災訓練などさまざまな防災・防火活動に消防団の参加を求めていく。併せて、女性消防団員の拡充にも努めていく。施設整備や修繕、装備・待遇改善にも引き続き努めていく。							
D 前年度の活動結果と見られた成果	活動結果	活動実績		29年度	30年度	元年度	単位		
		①費用弁償に係る出勤人数		16,635	16,176	16,275	人		
		②地区防災訓練参加団員数		644	289	319	人		
		事業費		74,461	74,670	66,642	千円		
		人件費		3,640	3,744	3,356	千円		
		総事業費		78,101	78,414	69,998	千円		
		活動単位当たりのコスト		29年度	30年度	元年度	単位		
		①費用弁償に係る出勤人数一人当たりのコスト		2	2	2	千円		
		②地区防災訓練参加回数一回当たりのコスト		11	8	8	千円		
		成果	成果指標		29年度	30年度	元年度	単位	
	①地区防災訓練参加団員数		実績値	644	289	319	人		
			目標値	600	650	650			
	②実践的訓練や講習・研修への参加(令和2年度より実績値報告)		実績値	—	—	—	回		
			目標値	—	—	—			
			実績値						
		目標値							
C 課題の整理	観点別評価	必要性		有効性		効率性			
		①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献	大きい	⑦コスト削減余地	ない		
		②市民ニーズ	高い	⑤成果向上の余地	ある	※対象・手段の変更			
			③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ある	⑧受益者負担適正化余地		ない
	事業の評価・課題	C							
		火災、水防等の災害出動により、市民の安心・安全に寄与することができた。各地区の自主防災訓練参加団員数については、一定数の確保はできているが、減少傾向にあり、消防団の意義や活動について見直し、地域から必要とされる消防団を目指す必要がある。南砺市の総合防災訓練への参観、南砺市消防団の視察受入等、有益な情報交換や問題共有を進めることができた。女性消防団においては、産業まつりや愛知消防団の日での啓発事業を通じて、消防団事業や女性消防団の積極的な啓発を行った。協和分団詰所の外壁補修や半田西分団車両積載ポンプの更新等、計画的な施設設備の更新を進めた。							
	A 課題解決のための目標	今後の事業の方向性	改善推進						
			地域の自主防災訓練については、従前の火災消火やポンプ操作訓練といったものから、避難所の開設等の消防団としての活動を伴わないものにシフトしつつある。このことから消防団に求められる役割も変化してきており、消火技能はもとより、ボート、チェーンソー等の操作をはじめとした救助能力の向上等、様々な技能を習得していく必要がある。令和元年度には総合防災訓練において、水上救難訓練や、倒木の除去訓練等の実践的訓練を実施した。今後も消防団の防災力向上につながる、実践的な訓練や講習への参加を促進し、地域の防災力向上へと繋げていく。消防団の啓発については、小・中学校などでの防災教室の開催や、防災キャンプへの参加を通じて、子どもたちへの防火・防災教育の普及、啓発活動を進める。女性消防団員については団員確保を最優先で進める。						
		令和2年度の目標	成果指標		目標値		単位		
			①実践的訓練や講習・研修への参加				3	回	